

2024 年度（令和6年度）事業報告書

1. 活動の成果

6月末にヘルパーステーションああすをヘルパーステーションああすこうなんに統合しました。年度はじめから準備し7月末までに事務所の撤退を含め、職員の異動、神戸市への届他を終了しました。訪問介護事業所はヘルパーステーションああすこうなんの1事業所となりました。

1) 訪問介護事業所ああすこうなん

(1) 訪問介護

次の8つを重点に取り組みました。

- ① 認知症や単身高齢者、医療ニーズの高い中重度の高齢者を含め「質」の高い、必要なサービスを切れ目なく提供します。
- ② 医療と介護の連携を強化し看取りへの対応も積極的にします。
- ③ 自立支援、重度化防止に向けて高齢者が社会参加、社会的役割を持ち生きがいある生活ができるよう支援します。
- ④ 知識、技術とスキルを上げて「質」の高いサービスを提供します。
- ⑤ 法令順守に基づく業務を行い、計画書やアセスメント、モニタリングなどの業務内容の相互チェックを年2回行います。
- ⑥ こうなんは介護件当円5～5.5万円で安定した経営を目指します。
- ⑦ 情報共有と事務効率を目指しタブレットの導入を進めていきます。
- ⑧ 働きやすい職場環境の構築と専門職としての職員育成を行います。

利用者が不安なく生活できるように支援し、地域に必要とされる事業所となれるように、医療、看護、他職種との連携を強化してきました。

人材確保、育成では、9月には常勤1名採用、定年退職者3名がありましたが、3名はああすメイトとして活動しています。

働きやすい職場づくりについては、新人職員にはこまめな面談を行い不安なく仕事ができるようにサポートしました。採用2年未満の職員からは、「働きやすい職場、職場を変えてよかった」などの声が上がっています。

資格取得では、喀痰吸引の資格を3名取得、介護福祉士受験1名が合格しました。

環境改善では、2024年制度改定の一つとして、介護ロボットやICTなどのテクノロジーの活用と生産性向上の先進的取り組みが求められるようになりました。また、効率化してできた時間を活用して、利用者に質の高い介護ケアを届け、介護の価値を高めるために、人材育成とチームワークの質向上・情報共有の効率化に取り組む必要があ

ります。今年度は、効率的な稼働、有給休暇の取得等働きやすい環境作りに努力しました。

2025年度ケアパレットの本格稼働の準備として、10月より導入研修や学習会を複数回開催し、業務の整理や見直しなど介護サービスの質の向上に向けて取り組みました。

経営では、介護報酬改定を受け、法人の体制を大きく見直し、ヘルプステーションああすの閉鎖、統合に踏み切りました。

利用者件数は、新規利用者を獲得しても、他方で即入院や入所になり件数が伸び悩み収益増加につながりませんでした。しかし、件当円にこだわり結果として平均では56,458円になり、目標55,000円を達成することが出来ました。



(2) 障がい者（児）訪問介護

次の2つを重点に取り組みました。

- ① 医療や看護と連携し、障がい者のニーズに応じたサービスを提供します。
(人工呼吸器使用者の痰吸引・難病など)
- ② 65歳以上の障がい者の介護保険併用でのサービスを提供します。

今年度は、長期に介護保険と併用の利用者の死亡や入所があり、下半期は収入的に大きなダメージになりました。利用者件数では同行援護1名、移動支援2名が増加しました。

2) 居宅介護支援ああすこうなん

2024年4月の介護報酬改定により1人当たりの介護支援専門員（ケアマネジャー）の担当件数が45件未満まで可能になりました。介護報酬は若干上乘せされたものの、煩雑な毎月のケアマネ業務を丁寧に遂行するには45件の受け持ちは困難です。予防プランは従来通りの委託契約で50件を目標にしてきました。

職員の動向では常勤職員2名が定年となりましたが、非常勤職員として雇用継続となり、利用者担当も変更がなく信頼を得ています。（非常勤職員2名が退職し8名体制から6名になりました。）

主任ケアマネ4名と経験豊富なスタッフ構成で認知症、ターミナル、難病、困難事例など質の高いマネジメントを提供してきました。

毎週定例カンファレンスを全員参加で実施し、情報共有と一人で悩まない職場環境に取り組みました。年間通して、研修を毎月開催し外部講師を招いて「ターミナルケア」

「ケアマネジャーにとっての ACP（人生会議）とは」等を学習しました。外部研修に 33 回参加、圏域のケアマネジャー交流会にも積極的に参加し横のつながりを図りました。

12 月に神戸市よりケアプランチェックを受け、3 年前の振り返りを全体で行いながら、無事に終了し高評価を受ける事が出来ました。

経営の安定については、職員の勤務形態の変更も影響し、予算目標の件数、報酬には届かない状況となりました。介護平均件数 179.9 件、予防平均 42.8 件の到達です。収益も月平均予算額 3,807 千円には達せず、3,368 千円となり、達成率 88.8%に留まりました。

法人の地域支援活動行事に利用者・家族への参加を呼びかけお誘いし楽しんで貰うことが出来ました。

3) 本部事務局

定期的に本部事務局会議を行い法人の全体像を把握できるように努めました。

財務、経理および給与関係の事務業務について IT 化を促進し、ソフトの更新とクラウド化をはかりました。結果として税務などへの対応が円滑にできるようになりました。

労働環境面で、事務所内の移動と整備を行い、職員間の調整・連絡が効率的かつ迅速にできるようになりました。

業務の総量把握と役割分担等、人事管理、経理、物品管理、文書整理等については引き続きの課題として残りました。

4) 地域支援活動

全世代型の居場所や会議室として、多目的ルームを活用してきました。

地域支援事業は、地域事業所 4 団体（住吉北部あんしんすこやかセンター・東神戸医療互助組合・認知症予防ネット神戸・地域福祉会あぁす）と連携した「ふらっと住良本町」の取り組みを毎週金曜日に行うことが出来ました。また、介護の日の企画として「住良健康ウォーキング」や認知症当事者の講演会を開催し、予定を超える参加で成功させることが出来ました。

今後、様々な世代のニーズにあった居場所が求められるため、試行企画として、参加法人の職員向けに「ふらっと赤ちょうちん」を夕方に行い、今後の居場所に繋がる内容となりました。

(1) 地域連携・協働・まちづくり

①地域協働活動

- ・「街かどカフェ」は11月で終了しました。
- ・季節ボックスは年4回（さくらBOX・夏祭り・ハロウィン・クリスマス）開催しました。延べ393名の参加がありました。
- ・あぁす食堂（子ども食堂）と銘打っての企画はしませんでした。3回開催しました。（ハロウィンのシチュー・クリスマスのカレー・鏡開きのぜんざい）
- ・夏祭りでは軽食（フランクフルトやかき氷等）を安価に提供しました。

② 地域連携活動

多目的ルームは地域に開かれた場所として利用されました。利用団体は、5団体131回 1,646名の利用でした。カンパは、28,853円でした

利用協力金（半日1,000円）は同額としましたが、経済的母体がない団体には配慮しました。

③ 任意後見事業

本人への定期訪問をおこない生活や身体状況を確認しました。訪問介護ヘルパーと連携し情報共有しました。

(2) ボランティア活動

毎月の多目的ルームのディスプレイはヘルパーステーションあぁすこうなんが行い好評です。また、最近は各行事への参加、物品提供活動、寄付活動など協力者が増えました。（地域住民や互助組合の方からの寄付など）地域に活動が周知されてきました。しかし、ボランティア登録は進みませんでした。



5) 感染症災害対策・虐待防止・ハラスメント（事業継続計画を含む）

(1) BCP（事業継続計画）

利用者の名簿作成等を行い、事業所ごとの学習会を開催しました。BCP研修会に各職場から参加できました（4名）

- ・BCP委員会 2回開催
- ・感染症防止等委員会 7回開催

(2) 虐待防止・ハラスメント

マニュアルの作成に留まりました。育成委員会で担当し、ハラスメント報告書など新たに作成され、報告ができる様に改善されました。

- ・育成委員会で権利擁護・虐待防止委員会 3 回開催しました。
虐待の疑い 2 件あんしんすこやかセンターに相談、報告しました。
- ・権利擁護 虐待防止研修会を開催しました。

6) 広報活動

(1) 機関紙あぁす TIMES

理事・職員ボランティアの協力で紙面を満たすことができました。技術的にはまだまだ難しいところがあり、その都度「調べ学習」ですすめてきました。期日に遅れず完成することを意識しながらも、肝心の記事のチェックミスにプリントアウト後に気づくなど常に反省でした。

(2) あぁすホームページ

まちづくりの地域支援活動イベント（鏡開き、さくら BOX、夏まつり、ハローウィン、クリスマス）の情報、新鮮な職場紹介、わかり易い求人情報などであぁすの事業内容の周知に効果がありました。あぁすタイムズ最新号も掲載配信されユーザーも増え効果が増えています。

(3) 公式あぁすLINE

新鮮な情報発信等が手軽にできる便利さがあり、QRコード等を活用しユーザー数増員に努めました。

ホームページ、LINEのWEB関連の更新作業が遅れることもあり、担当の明確化が必要です。

2. 事業を支える体制づくり

1) 人材確保

2024 年度に新規採用は常勤職員 1 名でした。退職では常勤職員 5 名、非常勤 6 名でした。うち定年などで非常勤に移行した職員が 4 名でした。

今年度の特徴は次の 4 点です。

- ① 常勤職員の採用は職員の紹介によるものです。
- ② 非常勤に移行したものが 4 名（2 名は定年退職）退職者を非常勤採用として迎えることができたのは重要な成果でした。
- ③ あぁすメイトが 3 名が生まれました。
（あぁすメイトとは、非常勤介護ヘルパーが 75 歳の定年退職後、主に生活支援事業に非常勤として就労）
- ④ 職員の病気や労働災害等ありましたが、3月末現在 1 名が休職しています。

2) 人材育成

① 必須研修の「感染症」「権利擁護・虐待防止」「認知症」を開催しました。

② OJTを軸とした研修に取り組みました。

- ・専門職としての知識、技術研修や指導は個別対応を行ってきました。

- ・個別指導では、定期的到達目標を立てて振り返る

など各自スキルアップできるように取り組み、新人教育には特に時間をかけて、指導や面談を行いました。

③ 集合研修では、参加型研修のグループワークに慣れ意見交換や情報共有、発表など活発になり、主体的な姿勢が生まれてきました。

④ 働きやすい職場環境改善の具体策として、業務の可視化や効率化を目指してケアパレットの研修と実施を試みました。



3) 職場環境

働きやすい職場環境の具体化と、業務改善の可視化や効率化に努めました。業務改善を目指したケアパレットの実践研修を開始しました。

本部事務局の業務の効率化を図るために、マニュアル化の整備、ICTの活用で業務のみえる化などを進め、また、事務所内のレイアウトを変え業務がスムーズになり、総務、庶務などの業務分担もできるようになりました。

3. 安定した経営

経常利益は赤字が続きました。下半期に赤字幅を縮小すべく取り組みましたが、経常利益は▲13,233千円となりました。

【全体の前進面】

- ・経営としての前進面は、人材の確保がはかれたことです。
- ・介護職場でのアプリケーションソフト（ケアパレット）を導入、介護記録、介護実績に効率化、迅速さをめざしました。
- ・本部事務局では経理ソフトの更新やクラウド化し業務の効率化を進めた。今後の取り組みの重要な一歩となりました。

【ヘルパーステーションああすこうなん】

収益では対予算 91.5%でした。

- ・件数の確保では、利用者の入所・入院などが頻回にあるも、確保に努めました。

- ・同時に訪問回数 1200 回/月に重点を置き奮闘しました。
- ・介護予防、日常生活支援、移動支援サービスなどの確保に努め収益に繋げました。

【居宅介護支援あさすこうなん】

収益予算に対し 92.3%の収益となりました。

- ・上半期では利用者の確保が目標に接近しつつも、下半期には利用者の新規確保は進みませんでした。
- ・利用者の入院、入所は増加し、この傾向の影響が考えられます。

4. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

① 通常総会 令和6年5月22日(月) 18:30~19:45

開催場所 東灘区文化センター8階 1号室

出席者数 27名(表決出席者は75名)

議事内容

- 審議事項
- 第1号議案 令和5年度事業報告に関する事項
 - 第2号議案 令和6年度事業計画案に関する事項
 - 第3号議案 令和5年度活動決算に関する事項
 - 第4号議案 令和5年度監査報告に関する事項
 - 第5号議案 令和6年度活動予算案に関する事項

第1号から第5号議案を圧倒的多数の賛成で可決した。

② 理事会

第1回理事会(続会) 令和6年6月26日(水) 18:00~19:30

- ・5月度業務報告を承認
- ・夏季賞与について承認
- ・総会の結果について意見交換

第2回理事会 令和6年7月24日(水) 18:00~19:40

- ・6月度業務報告を承認
- ・第1四半期の経営活動について

第3回理事会 令和6年8月28日(水) 18:00~19:30

- ・7月度業務報告を承認
- ・介護員の紹介報奨制度について規定の一部変更

第4回理事会 令和6年9月25日(水) 18:00~19:25

- ・8月度業務報告を承認
- ・兵庫県の最低賃金にかかわり、賃金の一部引き上げを承認

第5回理事会 令和6年10月23日(水) 18:00~19:25

- ・ 9月度業務報告
- ・ 上半期の活動について振り返り

第6回理事会 令和6年11月27日(水) 18:00~19:15

- ・ 10月度業務報告
- ・ 冬期賞与の支給、年末年始に手当について承認
- ・ 上半期の経営検討について
- ・ 第30回通常総会の日時、会場について

第7回理事会 令和6年12月18日(水) 18:00~18:20

- ・ 11月度事業報告
- ・ 決算・事業報告、予算・事業計画作成スケジュールについて

第8回理事会 令和7年1月29日(水) 18:00~19:50

- ・ 12月度事業報告
- ・ 通常総会にむけ役員選考委員会の立ち上げ
- ・ 令和6年度の事業報告および決算に関して報告

第9回理事会 令和7年2月26日(水) 18:00~19:50

- ・ 1月度事業報告の承認
- ・ 事業報告および計画について協議

第10回理事会 令和7年3月26日(水) 18:00~19:15

- ・ 2月度事業報告の承認
- ・ 令和7年度賃金表の改定を承認、
- ・ 事業報告・事業計画に案について報告・協議
- ・ 令和7年度暫定予算を承認

第11回理事会 令和7年4月23日(水) 18:00~19:40

- ・ 3月度事業報告の承認
- ・ 総会の準備について報告
- ・ 令和6年度事業報告・令和7年度事業計画についての承認
- ・ 令和6年度の決算について

第12回理事会 令和7年5月14日(水) 18:00~19:05

- ・ 4月度事業報告を承認
- ・ 令和6年度の監査報告について
- ・ 総会の運営と出席状況他

事務局長：倉谷 博

4役会議…理事長・副理事長(2名)・介護部長及び事務局長の5名による定期の会議を主催し事業の進捗、方針の具体化・徹底の確認、業務改善の提案など法人の運営全般を行った。

事務局…スタッフ3名 毎月1回の事務局会議で事業所毎の事務支援、業務改

善の提案などを行った。

(3) 会員

- ① 正会員 年度当初 94 名 新規加入 2 名 退会 12 名 現会員 84 名
- ② 賛助会員 0 名

(4) ボランティア

- ① 居場所「ふらっと住良本町」 2 名
- ② 地域支援 BOX 配布事業（年 4 回） 8 名

(5) 連携グループ

- ① 各地域のあんしんすこやかセンター
 - ・介護予防支援事業の契約を結び介護予防プランを作成した。
 - ・介護予防・日常生活支援総合事業で情報交換を行った。
- ② 各行政区を中心とした地域包括ケアシステムの中での取り組み
 - ・東灘社協と NPO の連絡協議会と情報交換・交流を行った。
- ③ 認定 NPO 法人認知症予防ネット神戸
 - ・認定 NPO 法人認知症予防ネット神戸の運営にも理事 1 名が参加協力した。
 - ・居場所調査に協力。
- ④ なんでも相談サロン（NPO きょうどうのわ主催の高齢者の居場所運営者の交流サロン）
 - ・高齢者の居場所「F ふらっと住良本町」の運営上の情報交換などを行った。
- ⑤ コミュニティサポートセンター神戸
 - ・CS 神戸主催の居場所サミット関係者と交流した。
- ⑥ 医療法人神戸健康共和会
 - ・年 2 回の共和会の社員総会・評議員会や合同管理会議、合同職責者会議に参加し、共和会や共和会グループの運営にもかかわり協力協同を進めた。
 - ・職員健診の実施。産業医契約も結び職員の健康管理を行った。
- ⑦ 東神戸医療互助組合
 - ・職員 1 名が理事として理事会に参加した。また、外部理事・監事 3 名が互助組合の理事会に参加。
各地域の支部の運営委員会に参加、支部総会にも参加した。
互助組合の出資金、「いつでも元気」誌の購読にも協力した。
- ⑧ 住良本町ネットワーク
 - ・住吉本町地域の団体でつくるネットワークで、神戸老人ホーム、東神戸病院、東神戸医療互助組合、認知症予防ネット神戸と地域福祉会ああすの 6 団体が

参加。

- ・ 居場所「ふらっと住良本町」を神戸市地域支援事業として開始、毎週金曜日に各団体週替わり持ち回りで、あぁす多目的ルームにて開催。
- ・ 11 月をフレイル月間として介護の日にスタンプラリーの他、フレイル予防の取り組みの講演会など開催した。

以上